

## 桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

本日、海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの観測では、3月5日の観測に比べ昭和火口の火口底が深くなっており、火口底内の温度は高い状態でした。また、南岳山頂火口では、前回（5月14日）より火口底が深くなっていることを確認しました。

桜島では、過去の事例から見ると小規模な噴火であっても、火砕流（火口から約1km程度流下）が発生する可能性があります。

また、火口から2km程度の範囲に弾道を描いて飛散する大きな噴石が達する可能性もあります。

火口から2km程度の範囲では警戒が必要です。

桜島では、火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。予報警報事項に変更はありません。

### ○ 昭和火口及び南岳山頂火口周辺の状況（図1～4）

本日、海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの観測では、3月5日の観測に比べ昭和火口内の火口底が深くなっていました。また、火口内に溶岩は、認められませんでした。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では火口底内の温度（約130℃）が、3月5日（約50℃）よりも高い状態でした。噴煙は少ない状態でした。

南岳山頂火口では、前回（5月14日）と比べ、今回の観測でA火口の火口底が深くなっていることを確認しました。また、火口内に溶岩は、認められませんでした。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測ではA火口の火口底が温度（約300℃）の高い状態になっており、前回の観測より高温域が広がっていました。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

※ 資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「25000分の1」地図画像を使用しています（承認番号：平17総使、第503号）。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。



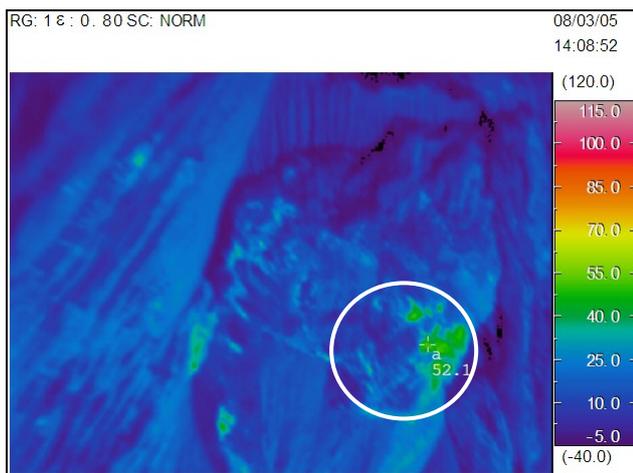
(写真1) 2008年3月5日

(写真2) 2008年5月20日

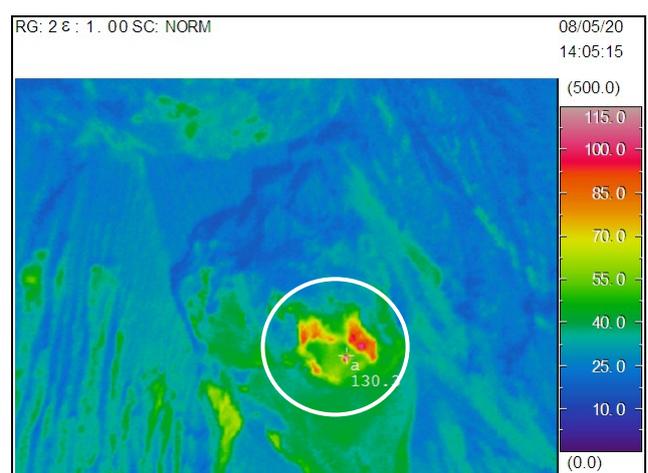
(写真1、2) 海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力による

図1 桜島 昭和火口の状況

- ・昭和火口の火口底（白枠）が深くなっています。
- ・火口内に溶岩は認められませんでした。



(熱映像1) 2008年3月5日



(熱映像2) 2008年5月20日

(熱映像1、2) 海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力による

図2 桜島 熱映像観測装置による昭和火口の状況

- ・本日（5月20日）の火口底内の温度（約130°C）が、3月5日（約50°C）よりも高い状態にあることを観測しました。（白枠が温度の高い領域）



(写真 3) 2008 年 5 月 14 日



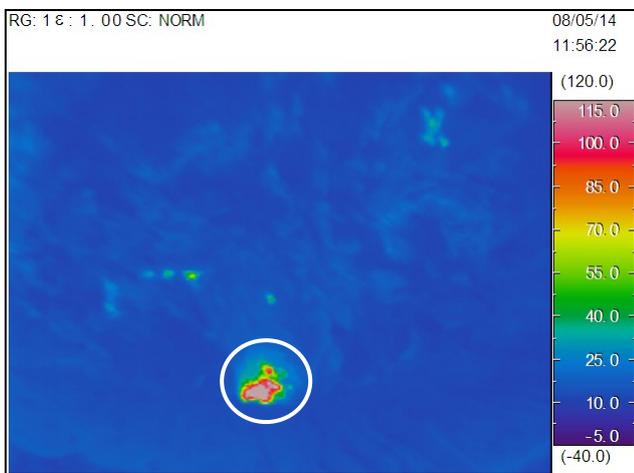
(写真 4) 2008 年 5 月 20 日

(写真 3) 九州地方整備局 (大隅河川国道事務所) の協力による

(写真 4) 海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力による

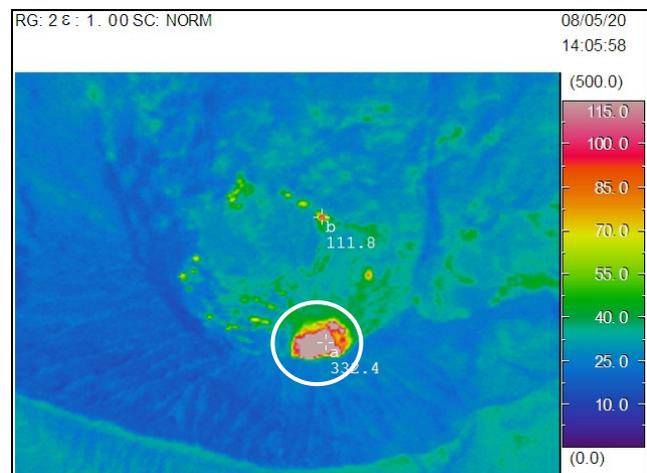
### 図 3 桜島 南岳山頂火口の状況

- ・ 前回 (5 月 14 日) と比べ、今回の観測で A 火口の火口底が深くなっていることを確認しました。
- ・ 火口内に溶岩は、認められませんでした。



(熱映像 3) 2008 年 5 月 14 日

(熱映像 3) 九州地方整備局 (大隅河川国道事務所) の協力による



(熱映像 4) 2008 年 5 月 20 日

(熱映像 4) 海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力による

### 図 4 桜島 熱映像観測装置による南岳山頂火口の状況

- ・ A 火口の火口底が温度 (約 300°C) の高い状態になっていることを確認しました。(白枠が温度の高い領域)
- ・ 前回の観測より高温域が広がっていました。

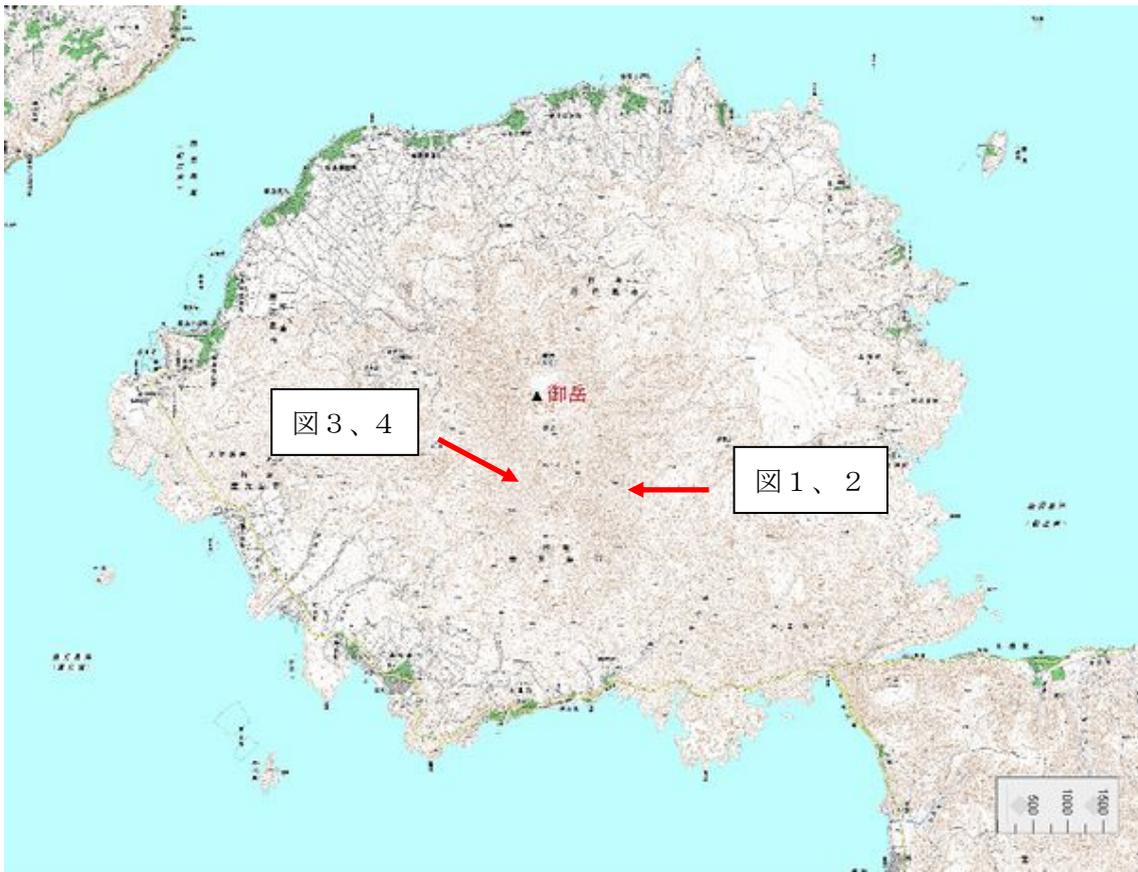


図5 桜島 写真及び熱映像の撮影方向